

政策調整会議の概要

開催日：H19.4.5

副知事あいさつ

政策調整会議は県庁の重要な会議の一つであり、今後、政策をどう行うか情報交換をしながら、議論する場である。会議のあり方は昨年度末にも議論されたが、メンバーは県幹部として県がどの方向に向いていくのかなどといった重要な政策決定を担っていくものである。庁議でも重要な決定が行われているが、その手前の実質的な議論の場である。

昨年度、安全安心まちづくり条例などといった重要な条例案について議論し、今年度もいくつかの重要な条例が考えられ、県としての政策を決めていく。各部局の立場でなく、県庁幹部という意識のもとで考えてもらいたい。

また、こういった議論の前提として各部局が何をしているか熟知してもらいたい。その意味でも、今月から毎月一回主要な取り組みについて報告（情報交換）してもらおうようになっているので、部局間の連携を進めていただきたい。

知事講話の中にイマジネーション（想像力）を働かすとの話があったが、これまでも部局間の連携を進めるべきとの話しをしてきたが、なかなか進んでいない。まずは自分の上司に迷うものでも何でも報告していく。副部長まで届けば、他の部局が何を行っているのかわかるし、副部長はメンバーに関係あるのでは、と想像力を働かせながら連携をとっていく。想像力を働かせる意味でも他の部局の動きに関心をもってもらいたい。こういった取り組みを続けながら、メンバーには想像力をはたらかせ、県の重要な方向性をみんなできつくりあげていくことを今年度のこの会のミッションとしたい。

項 目

- 1 議会対応について【総務部】
- 2 各部局の主要な取り組みについて

内 容

1 議会対応について【総務部】

〔説明概要〕

- ・ 議場へ出席要請があるのは、知事、副知事、部局長と行政委員会委員長および事務局長である。それ以外の副部長等については、議場連絡員の位置付けとなっている。
- ・ 主なものとして、出納長の廃止、予算との関係で会計管理者を総務部長の隣りへ、登壇の多い健康福祉部長を政策企画部長の隣りに配席するといった点について変更したい。
- ・ 18年度まで指定席のある副部長は出席していたが、勤務時間の有効活用や議場が手狭になっていることから議場連絡員の出席を最小限にしてはどうか。（指定者以外は、質問がある場合や質問が予想される場合等に出席）

〔主な意見〕

- ・ 空席があってもいいのか。
基本的に構わない。議会事務局との協議では、要請があった人が出席していれば構わないと聞いている。県議会選挙後の各派代表者委員会で説明し、了解を得たい。
- ・ テレビで放送された場合の見栄えはどうか。
知事にだけ質問をしていく予算委員会は心配である。なお、出席したい人を拒むものではない。
- ・ 部局も減り、重要な施策を抱える副部長についてはある程度指示すべきでは。

- ・ 提案に賛成である。出席していない間に他の業務も行える。
次の議案へも対応できる。以前にも検討されたが、議会中に他の業務などを行うとなると議会軽視との意見もあったりした。部局が再編された今の時期がいいのでは。
- ・ 部局長の意見も聞くべきでは。
今回、了承されれば次回の庁議に諮りたい。

2 各部局の主要な取り組みについて

各部局から、19年3月の主要な取り組み、4月の主要な取り組み予定について報告を行い、情報の共有をはかった。

〔報告への補足〕

- ・ 実質的アウトソーシングについて〔副知事〕
アウトソーシングの目的は県庁のスリム化や雇用創出など4つある。現在のアウトソーシングはスリム化（人員削減）が中心であり、実際には外部へ委託されていないため、実質効果が出ていない。本当に外へ仕事を出す（業務を見直す）ことが実質的アウトソーシングであり、新たな定義が加わるものでなく、もともとのアウトソーシングをもう一度考えてほしい。各部局はアクションプランをつくり、知事と議論する。これまで単なる数字あわせに走る傾向があったので、あえて数値目標は立てていない。色々なことが考えられるので、業務改革推進室とも相談しながらやってほしい。